Akita University

巻　頭　言

あきた数学教育学会
会長　田　仲　誠　祐

新型コロナウイルス感染症は社会全体に甚大な影響を及ぼし，今年 2021 年に入っても，世界は不安に包まれた状況にあります。クラスター，オーバーシュート，ロックダウンといったＳＦ小説で用いられる言葉が現実のものになり，日常生活のあらゆる場面で，三密回避，ソーシャルディスタンス，新しい生活様式等が浸透しています。何をもって日常とするのか、わずか２年の間で世界中の人々が大きな断絶を感じています。AI，Iot 等の先端技術による Society5.0 の到来により社会の在り方そのものの「非連続性」についての議論は以前からありましたが，今回のコロナ禍の経験を踏まえると、現代社会はこのような特異点を多くの方面にわたって内包しているといってよいかもしれません。

子どもたちへの影響も甚大です。ジャネーの法則によれば，「人生のある時期に感じる時間の長さは年齢の逆数に比例する」と言います。第 1 回目の緊急事態宣言時においては，長期間にわたって全国の学校が休校になりました。学校再開後も修学旅行，各種大会・コンクール等の中止・縮小開催など，子どもたちの輝く笑顔，感動の場、人生のかけがえのない時間が制限されています。そのような状況でも，私は昨年度県内の学校を数校訪問することができました。どの学校においても三密を避けながらではありますが，工夫しながら秋田型の探究授業に取り組んでいる姿に，秋田の学校のそこぢからを感じました。

中央教育審議会答申（2021）「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」は，日本型学校教育では全人格的な陶冶，社会性の涵養を重視してきており，その成果として日本人は礼儀正しく，勤勉で，道徳心が高いこと等を述べています。その上で，社会の急激な変化の中で再認識された学校の役割や課題を踏まえ，2020 年代を通じて実現を目指す学校教育を提言しています。その核心が，ICT の活用と少人数によるきめ細かな指導により，「個別最適な学び」と「協働的な学び」とを一体的に充実することを目指すことになります。

実は，「個別最適な学び」と「共同的な学び」が一体的に充実した学びは，湊三郎氏の授業三型論における自力解決・討論型に当たるもので，これまでもあきた型算数・数学の授業が志向してきたものでした。秋田県の算数・数学授業はシート学習を中心に取り組まれてきており，その歴史的な流れについては，今回、湊氏からご寄稿いただいた論文から詳細に知ることができます。私は，1982 年に中学校の教員になりシート学習に取り組んだ一人であり、その頃、私たちを導いてくださった諸先輩の業績を後世に刻むことの必要性を強く感じておりました。その意味でも，この会誌第３号は，歴史的にも意義深いものになっています。また，本号には，あきた型の授業についての授業構想，教員育成の面から実践研究報告として未来に向けた貴重な提案がされています。今後の秋田の数学教育の方向について，本学会において一層熱い議論が交わされる契機になることを期待します。

新型コロナウイルス対策のため，この 2 年間，定例研究会を対面で行うことができない中，本学会誌は会員を結ぶ重要な役割を果たしております。玉稿を提供くださった会員の皆様, 編集にご尽力いただいた役員の皆様に心より感謝いたします。本誌を手にする頃は、東京オリンピックの成功に世界中が喜びを共有しているころかもしれません。次年度の定例研究会は，ぜひ，会員で顔を合わせ，これからの数学教育の方向について熱く語り合いたいものです。